第60回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

１　会議名　　川崎市文化芸術振興会議

２　日　時　　令和５年２月10日（金）午後２時～午後４時

３　場　所　　川崎フロンティアビル９階　　市民文化局会議室（テレビ会議システムを併用）

４　出席者
（１）委員　８名　秋山委員
（テレビ会議システムによる出席 ）犬飼委員、垣内議長、川崎委員、
佐藤（敦子）委員、佐藤（昌弘）委員、関委員、藤嶋委員
（２）事業担当者（市民文化局市民文化振興室）　山本担当課長、小池担当係長
（公益財団法人川崎市文化財団）　瀬戸理事長、古内館長

（３）事務局（市民文化局市民文化振興室）白井室長、松山担当課長、笹川担当係長、彌本職員

５　議　事
（１） 令和４年度文化アセスメントについて（アートガーデンかわさき特別展示室事業（川崎浮世絵ギャラリー））
（２） その他

６　報告事項
（１）市民ミュージアム部会、岡本太郎美術館部会の報告
（２）文化アセスメント対象事業（平成28～令和２年度）経過報告

６　公開・非公開の別　　公開

７　傍聴者　　０名

【議事内容】
垣内議長　議題の（１）「令和４年度文化アセスメントについて」事務局から説明していただく。

（事務局から、資料１「令和４年度文化アセスメントについて」、資料２「事前ヒアリングシート（各委員からの質問、意見等及び回答）」について説明）

垣内議長　アートガーデンかわさき特別展示室事業（川崎浮世絵ギャラリー）について、事業担当者へヒアリングを始める。本事業は、今までかわさき宿交流館の近くにある砂子の里資料館で展示されていた、文化的歴史的にも価値が高い貴重な財産であるコレクションを無料で活用させていただくという契約であるため、意義ある事業だと思う。その一方で、十分に知られていない、人があま

り来ていない、川崎駅直結のビルという立地であるにもかかわらず、人流が少なく、さらにビル内でも奥まっていて分かりづらいなどの課題がある。すでに開館しているため立地を変えることはできないが、その制約の中でも位置づけやターゲット、戦略など様々な視点から改善できることについて、ご意見をいただきたい。委員の方も現地に行ってみて、運営されている公益財団法人川崎市文化財団（以下「文化財団」という。）の努力と工夫、そして数は少ないかもしれないが、コアなファンがいることを実感されただろう。文化財団がこれまで培ってきたノウハウとネットワークを活かすことが適切だが、他の施設との連携や、 駅直結というロケーションの活かし方など様々なアイデアを出してほしい。数字は残酷で、期待した入場者数と収入は得られていない。そもそもの目標設定が現実的ではなかったという考え方もある。どうギャップを埋めていくのか、ミュージアムというのは、そもそもマーケットが成り立ちにくく、運営費用をチケット代だけで賄うのは難しいことも踏まえて、ご意見いただければと思う。

藤嶋委員　長期的な計画やゴールが見えない。例えば、新しくできる市民ミュージアムの中にいずれはスペースを作りたいとか、現状は斎藤先生のコレクションをその都度借りて展示しているが、いずれは同じ建物で保管しながら企画もするという形にしたいとか、ビジョンを聞きたい。

山本課長　まず展示スペースの経緯を説明すると、15 年間無料で展示していた砂子の里資料館が閉館するときに相談を受け、市としても文化歴史の貴重な財産として活用するべきと判断した。その後、費用をかけずに整備するという方針から、土地整備などが不要なリバークに入ることになり、開館から３年が経った。市民ミュージアムはこれから様々な方針を作成するところでもあり、浮世絵ギャラリーは砂子の里資料館との協定があるため、協定の 20 年間は今の場所で活用する予定である。

垣内議長　市民ミュージアムは従来型のコレクションを１箇所にまとめ、そこで展示もするという、集約型ミュージアムと違う方向性を模索している。コレクションを利活用しやすく、保存に適した倉庫を作ることもできる集約型が大きな時代の流れだったが、国際的に見ると、70、80 年代から、色々な形で複数の拠点を持って、それぞれの土地の文脈に合わせたコレクションを展示、利活用するというモバイルミュージアムやエコミュージアムなどの流れがあり、市民ミュージアムも様々な形態のミュージアムを踏まえた方が良いという意見もある。浮世絵ギャラリーがあるリバークは、東海道が通る川崎駅の直結であり、砂子の里資料館も近くにあるため、少ない搬入コストで展示できるという合理性から選ばれたのだと推測する。藤嶋委員が言う通り、斎藤コレクションだけを考えるのではなく、市の文化政策全体の文脈からどう活かしていくかは、他の委員からもご意見いただきたい。また、現場を知る文化財団にもビジョンなどあれば現状を離れてお話しいただきたい。

文化財団　収集・研究・展示という３つの柱を考えると、美術館は収蔵品を持つべきである。現在、文化財団は展示を担っているが、学芸員が研究を進めるには収蔵品があったほうがよい。しかし、作品を持たないことによって、非常に安上がりに、非常に質の高い展示を効率的に行えているのが現状である。もし浮世絵を寄贈されたとなると、その管理だけでかなりのコストになる。

関委員　前期後期と鑑賞したが、丁寧な解説で浮世絵の奥深さが分かり、学芸員の観察力に感動し

た。私が行ったときは約 10 人いたが、20 人入ると窮屈だろう。入場者数５万人という当初の想定はどこから来たのか、あの規模だと疑問。他都市でも浮世絵専門のミュージアムはあるのか。

垣内議長　似たような規模だと藤沢市藤澤浮世絵館があり、そちらは無料である。コロナ禍の前は４万人が入っていた。個人的には浮世絵ギャラリーの入館料 500 円は少し高いように思う。

山本課長　５万人という入場者数を設定した時はコロナ禍以前であり、渋谷の太田記念美術館が約８万 5000　人、規模が大きいが墨田北斎美術館は 30 万人越えであり、インバウンドの方も多く来ていた。また、信州にある北斎館は地方でありながら 17 万人入館していた。また、垣内議長の言う通り無料の藤沢市藤澤浮世絵館は約４万人の入場者数だった。オリンピックパラリンピックの開催予定もあり、立地の良い川崎は国内外から多くの方が来ると信じ、５万人という想定を割り出している。実際にどれくらいの人数が滞留できる施設なのかを想定していたかは分からない。

　また、開館してすぐコロナ禍になり積極的な周知ができなかったが、昨年度からようやく普通の生活に戻りつつあり、できる限りの広報を行っている。市政だよりは会期ごとに掲載、デジタルサイネージやビジョンの利用、ラジオ、テレビ神奈川の市の広報番組に取り上げていただく、様々な施設にチラシやポスターを配架する、商業施設や団体との協力したイベントでの周知などである。

文化財団　文化財団のほうの広報は基本ポスターとフライヤーだが、新しい展示が始まるときは、大手新聞社にご協力いただいており、本日も読売新聞から取材があった。また、専門誌にも情報提供を行っている。なお、若い方には SNS の情報がよく伝わり、拡散されると来館者数が増える。

垣内議長　入場者数５万人の参考施設は規模感やコレクションが川崎市と大分違うことに加え、オリンピックへの期待も大きすぎた。また、広報をやってもターゲットに響かないことはよくあることだが、様々な形の広報は誘客に結びついているか。昔は広告を出せばすぐにチケットが売れたそうだが、今はそうでもない。ホームページなどのネット系が強く、自治体の広報誌も意外に強いことが分かっている。浮世絵ギャラリーの場合はどうか。

文化財団　印象による答えになるが、新聞などの活字媒体は１週間効果が持続する。一般的には知られていない揚州周宜の展示を行った際、普段は平均 40 人弱のところが、産業経済新聞の特集後は約 60～70 人に増えた。市政だよりを見る方も多く、高い年齢層の方は活字媒体の反応が良い。

　また、年間パスポートについて、普段は１名購入が３日続くとよく売れているという感覚だが、Twitter でパスポートを紹介した翌日は５つ売れ､そのときの入場者の年齢層も若干下がっていた。

関委員　アートギャラリーと連携して、奥にある浮世絵ギャラリーに誘導することはできないか。また、東海道交流館で展示しているような、１つの作品を映像で解説するドラマを浮世絵ギャラリーでも作成すれば、子ども含め家族連れで来館するきっかけになるのではないか。

藤嶋委員　広重の作品の景色と同じ場所から撮った現代の写真を一緒に展示すればより興味が湧いてくるが、それをやるスペースはなく中途半端である。壁に作品を展示するだけではなく、東海道の様々なイベントと結び付けた方が集客に効果がある。また、スペースを考えると限界があるが、

藤沢市藤澤浮世絵館とも連携できないかと思う。

佐藤（敦）委員　現在の３倍の入場者数がコンスタントに入ってようやく採算がとれるという話だが、実際そうなると今のゆったりとした鑑賞スペースは確保できなくなるということだった。私が拝見したとき、非常に工夫された解説書により、見ている絵の価値がよくわかった。例えば作品の風景と現在の風景を展示すれば、若い方の興味もひき、インスタに載せてもらえるなど広がりがあると思うが、それをするにはやはりスペースが足りない。人気がでて多くの人が来れば、混雑し満足度が下がりリピーターは減るだろう。非常に複雑な状況である。

　また、他の質問で継続性を考えて再考するという回答があったが、人気が出ればそれでよいというわけではない限られたスペースで事業展開を考えるのか。再建中の市民ミュージアムに拠点を移すことは選択肢に入らないのか。

犬飼委員　大変質のいい展覧会であり、学芸員が大変優秀で、色々な工夫がされており面白かった。入場者数５万人の参考にされた施設、伝統のある太田美術館、宣伝に力を入れる墨田北斎美術館、観光と連携している小布施の博物館は、現段階では浮世絵ギャラリーと結びつかず、入場者数を増やすのは違う方向から考えないといけない。作品自体は質が高く、この前みたいに工夫すれば面白い展覧会ができるので、そこを強みにするとか。そもそも川崎市民でも浮世絵ギャラリーの存在を知らない人が多い。行ったことがある私でも迷うくらい、駅からの行き方が分かりづらいのは問題である。また、貸し出しされているアートガーデンでは様々な展覧会をやっており大勢の人がいる一方で、浮世絵ギャラリーには気づいていない人がいるのではないか。

垣内議長　施設空間のキャパシティや工夫など、何をするにもコストがかかるため、コスパも考えないといけないが、そこはどうなっていますか。

山本課長　まず駅からの案内について、北口を出てすぐにあるフロンターレの広告は有料のスペースであり、並べて掲示は難しい。コストがかからない場所として、北テラスの案内所の前と、階段を降りた中二階のリバーク入口に看板を出している。より目立つようにしたいと思うが、有料広告との関係でこれ以上は難しいと言われている。常時ではないが LED ビジョンでも広告されている。

　また、あのスペースに当初の想定の５万人は、来たら来たで混み具合がストレスになるだろう。浮世絵はデリケートなものであるため、歴史的な貴重なあの作品を後世に残すためにも、照明や温度湿度が管理されたあの 100 ㎡足らずのスペースでしか活用できない。その一方で、レプリカや浮世絵を印刷したパネルなどを使って比較や体験をすることは他のスペースを使ってできると思う。他の施設も所管する部署としては、東海道交流館や週単位で貸し出しを行っているアートガーデンなどの施設と連携できないかと思う。また、小中学生向けの授業も市としては重要であり、今はクラス単位で見学できるスペースはないが工夫できないかと思う。

文化財団　アートガーデンに来る年間３万人は集客に結びつけられない。スペースがないため学校利用もできない。今は写真撮影ができる美術館もあり、その写真を入場者が SNS にあげることで集客につながったりするが、それも浮世絵ギャラリーはできない。しかし、これらができて集客力がアップできるとしても、あのスペースで集客を増やすべきなのかは疑問。だからこの程度でいい、

というわけではないが。

有料の企画展のついでに無料でコレクション展を見られるというのが一般的な美術館であり、基本的に無料のアートガーデン利用者が有料の浮世絵ギャラリーに流れるのは難しい。アートガーデンのついでに浮世絵ギャラリーを覗かれる人はいるが、有料施設と分かると観覧を諦めてしまう。物理的・地理的な条件というよりも有料施設というハードルが高いと感じる。

また比較して考えると、生田緑地は学校利用も多く、週末にかけては家族連れも訪れる。それは生田緑地の各施設が学校利用に力を入れており、駐車場も多くあるという立地も関係している。その一方で浮世絵ギャラリーがある川崎駅周辺は、バスで移動して来館するというインフラ整備が厳しい。そして、静かな環境で解説を読みながら浮世絵を鑑賞するとなると 10 人程度が限界だと思う。

一部の作品にのみ解説をつける美術館があるなか、浮世絵ギャラリーはできるだけ全てにつけるようにしており、足りていない部分は後からでも付け足している。浮世絵の約１ヶ月しか展示できないという制約のなか、当時と現代の対比や展示の工夫などは少しずつ行っているのが現状である。

秋山委員　多岐にわたる意見はもっともであり、私も提案を出させていただいた。しかし、これらを全部やるだけで大変な作業であり、費用もかかる。まず、広告宣伝について、いつも川崎駅を出入りする私は駅周辺の広告を目にしているが、この程度で十分であると思う。採算性については難しい課題である。東京の有名な美術館の企画展のように、前の人の肩越しでしか作品を見ることができない状況では入場料は増えるかもしれないが、本来の浮世絵鑑賞という趣旨が台無しである。大赤字を垂れ流すようでは困るが、黒字にしなくてはならないなどと神経質になる必要はなく、誤解を恐れずに敢えて申し上げると、多少赤字になってもゆったりと鑑賞できる環境が一番大切であると思う。

次に会場の展示について、地図を一緒に入れたらとか、当時と現在の対比をしたらなどと私もコメントしたが、あの限られたスペースの中で大事なことは、素晴らしい浮世絵の現物に集中し鑑賞し楽しんでいただくことではないか。参考となる様々な資料が余分ということではないが、ないものねだりをしなくても、今回の展示は解説も含めてよくできており、見学者の満足度を重視した良い催しであったと思う。

川崎委員　観覧料金は市の条例で決められているのか。もしくは財団側で決められるのか。

山本委員　条例設置の施設ではなく普通財産の貸付施設であり、料金設定に縛りがある施設ではない。市の計画ではあるが、最終的には文化財団が作成した事業計画書で金額が設定されている。

川崎委員　課題である「多くの人が来たら困る」と「かかる費用は賄って、という市からの要請」の２つを解決するには、今のところ料金を工夫するしかない。現在の一律 500 円（高校生以下無料）を、安くしすぎると人が来すぎる、高くしすぎると人が来なくなるため、バランスを見て設定する。

他にもアートガーデンとセットで 1000 円に設定する、良いか悪いかは別として美術品のなかで食事ができるなど有料で付加価値をつけるくらいしかやることはない。採算性を重視するのであれば、展示だけで稼ぐというのには限界があるため、高めの料金で限られた人に楽しんでもらう方法しかない。しかし、それは市の政策目的である「広く市民の皆さんに」と逆を行くが、それが施設

の限界である。高めの料金設定などの工夫は文化財団のほうであるだろうか。

文化財団　入場者数と採算性のベストバランスの見極めが重要である。当初の５万人という目標はさておき、展示を含めたクオリティの問題として、実際の適正な入場者数はどの程度か。実際に観覧するとボリュームはあると感じるが、ギャラリースペースとしては非常に小さいため 500 円という金額は妥当である。ワンコインという気軽さや、徴収しやすさの面も含め、金額を維持した上で適正な入場者数を考えたい。では、採算性が足りない分は誰が負担するかは、事前ヒアリングシートの 19、20 番で回答しているとおり、市と財団の適正な役割分担の再検討が必要だというのが文化財団の考えである。文化財団の理事会などでも赤字事業への懸念は多く表明されているため、文化財団は適正な役割を担っていることを証明する必要がある。

垣内議長　自治体の公立施設は統廃合を含めた効率的な整備が基本になっている中、新しいギャラリーを作った川崎市はさすが政令指定都市と言えるが、一部の趣味人へのアピールや、お金と興味がある層だけが鑑賞するということは許されない。人が来すぎると困るということだが、ヨーロッパではもちろん、コロナ禍を経験して日本でも予約制を導入している施設が増えた。藤子・F・不二雄ミュージアムもそうだが、予約制である程度の満足度を確保しながら入場者数をコントロールすることはできる。また、客を育てるという考え方もある。劇場の事例だが、兵庫県立芸術文化センターは、最初はベートーヴェン、カルメン、椿姫など有名な演目を行い、観客がオペラやクラシックの良さを理解してから、満を持してあまり知られていないキャンディードを上演した、そういう戦略もあっていい。

時間のため、ヒアリングはこの辺りで終了し、次の資料３について、事務局から説明していただく。

（事務局から、資料３「文化アセスメント調査・評価シート」について説明）

垣内議長　次回の会議で報告書は完成するのでご意見をいただきたい。

川崎委員　24 番「市民の満足度」について、来館した方は満足かもしれないが、そもそも来館されている方が限られているため、一番良い評価の４は疑問である。コンテンツは素晴らしく快適に観覧できたが、広く市民に知れ渡っていないのに市民の満足度が高いといっていいのか。

垣内議長　良いコレクションと適切な目標でやっているが実態が伴っておらず、４評価はないと私も思う。そもそも市場で成り立たないミュージアムという施設に無理やり採算性を求める設定がどうかと思う。

佐藤（昌）委員　24 番「市民の満足度」について、私もコンテンツ自体は非常に素晴らしいと思ったが、あまりにもコアである。浮世絵というジャンルは素晴らしいが、それがどう若い人に伝わるか。SNS で拡散するのであれば、彼らに訴えかけなくてはいけない。若い人たちが来場したとき興味を持ってもらえるようなキャプションにするだけでも違う。市民のためのミュージアムというポピュラリティを考えた方策が見えてこないのが残念である。

関委員　19 番「達成度」について、当初目標の５万人と比べると少ないが、規模を考えるとそもそもの設定が妥当ではなかったため、２ではないと思う。適切な基準が見えない。

　また、いかに若い人たちに魅力を伝えるかは重要であり、浮世絵はゴッホなど世界的に有名な画家にも影響を与えているため、２、３点でいいからそのような作品と浮世絵を見比べて鑑賞できれば若い人たちにも伝わると思う。多く来すぎても困るため、予約制を利用してとなるが、採算性の確保は無理だと思う。

垣内議長　18 番～20 番の（１）事業の目的については、事務局にとりまとめていただきたい。

佐藤（敦）委員　事業計画の年間入場者数５万人に対し 19 番「達成度」が未達成となっている点は、関委員の言う通り、現在のスペースでは無理があるため、18 番「設定の妥当性」を見直すべき。また、先ほどの話だと、Twitter をやると若い方が来て、新聞広告を行うと年齢層が高い方が来たなど、施策が行き当たりばったりで、ターゲットが曖昧に印象を受けた。19 番「達成度」が２に対し、20 番「手段の妥当性」が３は高いと思う。

秋山委員　評価が４である 24 番「満足度」の対象は、来場者だけか、もしくは市民全体なのか、どちらなのかが分からなかった。後者であれば、来館していない方の満足度を評価するのには違和感がある。前者であれば４であるかは分からないが、低い評価にはならないだろう。25 番「周知度」については、来なかった方も含め市民全体に鑑賞の機会を与えたかという設問だと思う。

松山課長　24 番「満足度」の対象について明確な決まりはないが、市が関わる事業であり、特定の方だけが満足できればいいという形での評価は難しいため、来館者以外の満足度も含まれると思う。

垣内議長　来館者は非常に満足されるが、来館されない方が多くいるという問題がある。他の周知度とか参加度などの項目と重なる部分もあるが、客観的な事実を書いていただき、評価することになる。

犬飼委員　26 番「波及効果」に「団体や事業者等から、ツアーをはじめとする各種企画においてギャラリーの活用依頼が寄せられ実施されている」とあり４評価であるが、まだ足りていないと思う。

垣内議長　学校のクラス単位でも団体利用は難しいという説明だったが、具体的にどれくらいの団体数、事業者から問い合わせがあり、実施されているのか。

　この文化アセスメントというのは前向きなものであり、未達成な部分はどうすれば達成できるのかを考えるものである。浮世絵を川崎市の方々に体験していただくという素晴らしいミッションを、やり方や場所の制約があるなかで、どう達成していくか、客観的な事実に基づいて、きちんと評価した方がこの後もやりやすい。繰り返しとなるが、施設の性質上、採算性を求めること自体どうかというところもある。

文化財団　均すと月 1 回あった。まず、JR が企画した街並みツアーが３ヶ月にわたって約８回、各

回７～８名の利用があった。川崎周辺のアート施設、無料で見られる工事現場の仮囲いに描かれた絵やマンホールなどの一つとして浮世絵ギャラリーにも来られた。団体利用はできるだけ 11 時の開館前の利用をお願いしており、このツアーもそう。他の民間のツアーも年３回ほどあり、学校関係だと中学校の美術部や、特別支援級の子供 15 人、引率５人くらいが来られた。

垣内議長　それらの可能性の兆しも書いていただければと思うが、４の評価には疑問という意見が出ていることを踏まえた上で、事務局のほうで取りまとめいただきたい。

川崎委員　このアセスメントは問題を浮き彫りにして課題を明確にするということが重要なミッションであることを踏まえると、問題になっている採算性については、29 番「費用の効率化」の評価を１にして、「これ以上無理」と言い切ることがアセスメントの役割として重要かと思う。特別支援級や中学校の美術部などの将来の育成事業は無料でやられていると思うが、無料の部分で頑張っても採算が合わない。公的な学校からお金を取るのも違うと思う。そのため、その無料で実施した分は市が出すくらいは言ってよく、この「費用の効率化」は１にして課題を浮き彫りにしたほうがいい。

垣内議長　私もそう思う。ここで客観的な事実に基づいてしっかり評価をすることで、市に何をしてもらうのか考える。規模感は無料の藤沢市藤澤浮世絵館が近い。無料であればアートガーデンに来た方が気軽に観覧できる。その代わり、お金がある方がいれば、寄付やメンバーシップ制度、グッズの購入などの形で少し回収することもありえる。いずれにせよミュージアムであり、条例施設でもないとのことなので、採算性を言い過ぎるのはどうかとこの委員会で明確に打ち出してもいい。社会的便益や費用コストを負担できないような方でも必要としているサービスを提供することを市が肩代わりすることは、決して市民の反発を受けるものではないので、そのあたりを工夫するとよい。

佐藤（敦）委員　垣内議長に賛同する部分もあるが、無料が良いかと言われると「無料だからあまりお金はかけない」という位置付けとなって、予算が付けられなくなり、結果として学芸員削減や展示の質の低下となってしまう事態を招くのではないか。市として懐深く無料にすることを受け入れるのであれば反対はしないが、無料にするから作品は置くだけ、というような形にはしないでいただきたい。学芸員の方がやられている展示の工夫や解説というのは、浮世絵ギャラリーの非常に良い特徴であるので、それは留意していただきたいと思う。

垣内議長　無償というのは極論だったかもしれないが、博物館法は原則無料である。但し書きで実費を徴収しても良いとされており、原則論をどう考えるか。その辺りは岡本太郎美術館など市の他の施設とのバランスもあるため、市で検討していただきたい。ただ、できるだけ多くの市民、特に経済的、社会的に不利な人たちへの配慮は、この文化アセスメントでも考えていきたいと私は思う。
　そろそろ時間であるため、何かあれば、直接事務局に寄せていただきたい。続いて、事務局から連絡事項について説明いただきたい。

（事務局から、資料４「今後の会議内容及びスケジュールについて」説明）

垣内議長　続いて、藤嶋委員から市民ミュージアム部会について報告いただきたい。

（藤嶋委員から、資料５「資料５　市民ミュージアム部会の報告」について説明）

垣内議長　他の報告事項について、事務局から報告いただきたい。

（事務局から資料５「岡本太郎美術館部会の報告」、資料６「文化アセスメント対象事業経過報告書」の説明）

垣内議長　議事については以上である。